

都市生活生協支援 第14号

1995.7.25

救援ニュース

都市生活現地救援本部
西宮市今津山中町9-9
電話：0798-36-6679

♡現地救援本部♡ INFORMATION

7月28日

★救援青空市★
室谷第3仮設住宅
弥栄台仮設住宅
(ともに神戸市西区)

7月29日

★救援青空市★
ひよどり台仮設住宅
(神戸市北区)

★産直野菜救援青空市★
(詳細は2面に)
六甲アイランド
(神戸市東灘区)

カレーライスに釣られて

～高校生のボランティア奮闘記～

去る7月7日、七夕の日に尼崎市・橘公園仮設住宅で仮設住宅交流会が開かれました。この時、組合員Kさんの息子さんと友人数人がお手伝いとして参加してくれました。彼らは七夕の笹の飾り付けや消費財の引き売りに大活躍。次の文章はK君が編集部へ寄せてくれたものです。(編集部)

当初僕たちはカレーを食べるという目的で橘公園に行きました。ところが目的地に着いてみると青空市や仮設住宅の山。

「なにこれ？」

僕らはよく働く仕事人として呼ばれたらしい。自転車を置いてテントへ行くと、「はやく手伝って!」と何とも気のきいたセリフが飛んで来た。友達に、ただでカレーが食えるみたいだから

ら行こーと誘ったときに、「夕夕より怖いものはないよ」と言った友達の一人は、「ほら見ろ!」といわんばかりの怒りの瞳でこちらを見るし。他の二人はもうあきらめてたし。もう逃げ出すわけにもいかずしかなかった手伝いだして感じたことを書きます。

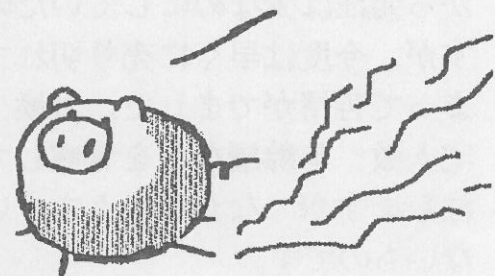
仮設住宅の合間をぬって歩き回って感じたことは、ボランティアをする難しさです。どこまでボランティアをすればいいのか、仮設で暮らしている人の生活を土足で踏みつけたりしてないのだろうか、と罪悪感に悩みながら花を配りました。

今、人々が一番全体的にしなければいけないことは、人の心の奥にある警戒心を解くことだと思えます。人の好意を好意として受け取ることのできない人達への態度の難しさを知りました。

にぎやかにして、チャランポランを装っていた僕たちは、こんな事を思っていました。

以上ナマイキな文章でした。でも、朝日新聞のおっさんにほめられたし、おもしろかった。(こんなん書いたらまたつれて行かれるわ……)

by 六ノ胃三木夫



ドキドキ♡ハラハラ

新聞の震災関連記事のスペースがだんだん小さくなっていき、のどもと過ぎればなんとやらの例にもれず、あれほどの出来事がうずもれていきそうなか、南神戸支部のエリア内でもあちこち仮設住宅が目立つようになってきました。

大半は街中に建っていてそんなに不便じゃない所だと安心する反面、慣れない場所で大変だろうなと思うのですが、思うばかりでどう動いて良いのかわからなかった時に出てきたのが青空

初めての青空市
～明石市中崎仮設住宅にて～
南神戸支部 藤井幸恵さん

市の企画でした。現地救援本部が応援してくれるというので、それなら私たちにもできるかも、と第1回目の青空市を7月15日明石の中崎仮設住宅で行いました。

準備の時間設定が短すぎ、慣れないことでウロウロする場面もありました

が、思ったより多くの方が来られてホッとしました。

ドキドキハラハラの1回目は、ただただ忙しいだけで終わってしまったというのが事実ですが、次回からは消費材を売るだけでなく、何をすればお互いの(私たちも被災者なので)自立の手助けとなるのかをみんなで考えて話し合っていけるような方法を探りたいと思っています。

まずは自分が動いてみることで納得しながら帰路につきました。

《元気野菜でみんな元気に》

3/12(日)の『あいたくて「都市生活」みんな仲間だ』から約5ヶ月。あの興奮と熱気はいまだ記憶に新しいところです。当日は、大阪事業連参加単協や京都エル・コープが応援に駆けつけてくださり、大変な盛り上がりでした。

そしてこの夏。今度は各生協の野菜生産者をご自慢の無農薬(あるいは低農薬)・有機肥料栽培の野菜をたくさん持って来てくれま

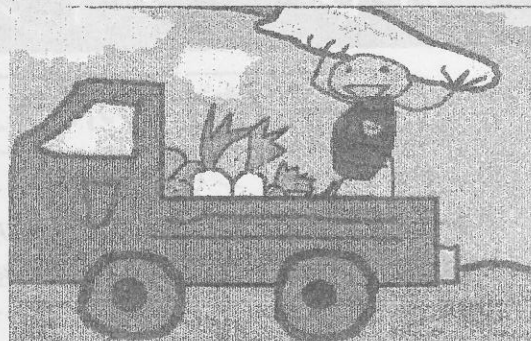
産直野菜救援即売会
開催!

7/29(土) 正午~2:00
六甲アイランドにみんな集れ!

す。仮設住宅住民から最も要望の高い「野菜」。その高品質・安全な野菜をより安価で提供できる機会。また、都市近郊農業の重要性を訴えかける場。そういった会場に集う人々の語りいとふれあい。そんな出会いを求め、野菜に加え

て牛乳や米の販売、そして趣向を凝らしたアトラクションを企画し内容の充実をめざします。

合言葉は、「あいたくて」から、今再び・・・」。7/29(土)はリックで再会しましょう!

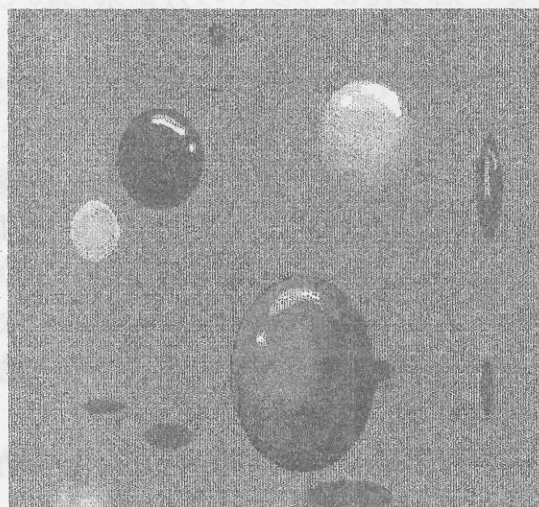


手作りケーキでなごも青空市

西神戸支部 内田潮路さん

7/14(金)、訪ねた2カ所の仮設は買い物にはとても不便な所でした。西神南駅から、はるか遠く離れた室谷仮設はそれでも若い人が多く、青空市のテントはあふれかえる人でいっぱいになりました。前回品物が残って困った経験から発注は少なめにしていたのですが、今度は早くに売り切れてしまって苦情ができました。気候、在宅人数、年齢層などを考慮して発注しますが、なかなかうまくいかないものです。

テントの横では手作りケーキと冷たいお茶を用意し買い物が終わった人にふるまいました。これ



はとてもステキな試みでした。皆さん「あら、ありがとう!」と笑顔がこぼれ、そこから話が弾みました。仮設の人同士もお互いを知るきっかけになり、肩を並べて帰っていかれる姿もありました。

グリーンスタジアムを北へ登りつめた所に、弥栄台仮設があります。こちらは本当にお年寄りが多く、駅から遠いので買い物も大変です。それなのに事前に場所確認をしていなくて予定と違う所で市を開いてしまい、みなさんに大変迷惑をかけてしまいました。待っていてくださった方たちをワゴン車でピストンしたり、遅ればせながらとって返して青空市のやり直しをしたりしましたが、もうすでに品薄だったのでがっかりされた方もいらっしゃいました。

お詫びに、近々、名誉挽回青空市を開き、今度こそ喜んでいただこうと思います。“最終確認を怠らない!”これがこの日の大きな反省であり、これからの教訓となりました。



現地救援本部
新スタッフ紹介

生活クラブ東京
みやした りんご
宮下 健二

現地救援本部スタッフとして、7月17日から2週間と本当に短い間ですが、少しでも役立てればと思い、生活クラブ・東京から参りました宮下健二と申します。元気が取り柄の私ですので、他のスタッフに負けないように、とにかく、がんばります。元気なのが居たら私なので一声掛けて下さい。一人でも多くの方と接する事が出来ればと思います。どうぞよろしく願い致します。

グリーンコープ生協北九州

いなかすひさ
稲田和久 (35歳)

グリーンコープ生協よりの助っ人です(第5陣)。被災地の皆様に対して、たった2週間で何ができるのか解りませんが精一杯頑張らせて頂きたいと考えています。

生協の基本である「たすけあい=相互扶助」の精神を見つけ出したいとも思っています。